

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891700153		
法人名	社会福祉法人 坂井福祉会		
事業所名	認知症共同生活介護 湯池野(東十郷ユニット)		
所在地	福井県坂井市坂井町下関42-4-2		
自己評価作成日	平成29年 8月 10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成 29年 8月 30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

坂井平野の田園風景の広がる風景の中の複合施設の4階部分に事業所は立地しています。居室の窓からは、西側には広く田園風景を眺められ、東側には山並みを望み季節感を味わえる環境にあります。地域密着型特養・ショートステイ・認知症型デイサービスを併設した複合施設の中で当該事業所にとられず広く交流出来る環境作り心掛けています。また、家族の面会や地域のボランティアの受け入れを行い、開かれた環境を作っている。医療面については、利用者の状態を常に把握し、必要時には併設事業所の看護師に相談しながら協力病院への受診を行い、安心して生活出来る環境作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は田園風景が広がる坂井平野に立地しており、複合施設の4階部分にある。法人の理念である「愛情と対話」を大切に、個々の目標を持ち、自己評価目標達成に向け、日々の業務を心がけている。普段から利用者、家族の要望、意見を受け入れ、運営に反映させ、利用者が過ごしやすいよう支援している。地域密着型特別養護老人ホーム・ショートステイ・認知症対応型デイサービスを併設した複合施設の中でお互いに広く交流が出来る環境作り心掛けています。行事や避難訓練等においても連携を図っている。利用者が安心して日常生活を送れるよう、馴染みの関係が途切れない様に職員間で連携しながらケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念である「愛情と対話」を元に事業所の理念を管理者・職員と共に作り、基本理念に基づいたケアを意識できるよう毎朝の申し送り時に唱和している。	法人全体の理念「愛情と対話」をミーティングの際に唱和したり、ネームプレートの裏に明記し、常に理念を意識して毎日のケアを行っている。個別目標を設定し、自己評価を行い理念に基づいた実践に心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れ(紙芝居、ピアノ弾き語り)や併設の特別養護老人ホームと合同で納涼祭を開催し、地域の掲示板でお知らせする事で多数の参加を得ている。	保育園、中学生、地域のボランティアの慰問を受け入れている。また、地域の行事等を広報誌等で案内し、地域とのつながりを持っている。	利用者が地域とのつながりを持ちながら暮らせるよう、推進会議に地元の消防隊員の参加を求め災害時の協力について話し合ったり、事業所が地域の一員として日常的に交流したりするなど協力関係強化への取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事への参加を行い、地域の団体等のボランティアを招き交流を図っている。また、併設事業のデイサービスの利用者の方がしばしばグループホームに来訪している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民・行政職員・利用者家族の参加にて2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、事業所の現状・行事の報告を行っている。会議での意見を運営に反映を行っている。	推進会議のテーマは参加者より積極的に出され、活発な意見がある。内容は報告書を家族に送付している。職員間で検討事項等について1つ1つ取組み、積み上げ、改善するようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者に運営推進会議への参加を依頼し、常に事業所の運営について意見を頂いている。運営上の疑問点があれば、常に意見を求められる関係の構築を行っている。	運営推進会議には毎回出席してもらい、意見をいただいている。認定更新の機会などに利用者の生活ぶりや具体的なニーズを伝え、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用開始時、事業所は身体拘束を行わない旨を本人・家族に説明している。職員へ身体拘束の是非についても話し合い、身体拘束は行っていない。	フロア全体が事業所で、廊下は長く広い。一人歩きの利用者には安全面に気配りしながら、その方の思いいっばいに過ごせるよう取り組んでいる。利用者の権利擁護や身体拘束に関する研修会を実施し、職員の意識の共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、職員に高齢者虐待の防止について徹底し、利用者に対して尊厳を保った対応を行うよう周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用契約時、身元引受人を選定して頂き、サービス内容等について説明を行っている。現在、成年後見制度等の活用事例はないが、必要に応じて案内を行える体制は取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時には、契約書・重要事項説明書を説明し、署名捺印を頂いている。質問・要望についても確認行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム便りを作成し、担当職員が近況を書いて家族に毎月送付している。また、運営推進会議への利用者家族の参加を依頼すると共に、面会時等利用者の現状を家族に報告し、要望等を確認している。	事業所内に設置した「ご意見箱」や家族の来所時等で意見をもらっている。何でも言えるような雰囲気作りが心にかけている。出された意見、要望等はケアプラン報告時に担当者がコメントをつけ報告している。また、出された意見は職員間で共有し支援に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、週1回ミーティングを行っている。また、月に1回の全職員参加の事業所会議を行い、意見交換・提案の機会を設けている。	上司は職員の意見、提案を聞くように心がけており、利用者との日々の関わりの中で出てくる気付きやアイデアを業務に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員個々との面談を行い、勤務状況ややりがい等の意見交換を行っている。また、研修等においても本人の希望や経験年数に合わせ受けられるような体制を取っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の勉強会や経験年数に合わせた内部研修を計画的に開催している。また、外部研修についても、経験年数・習熟度に応じて積極的な参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での会議を設け、事業所の方向性や現状について意見交換を行い、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前には、必ず自宅等を訪問し本人・家族の抱えている問題等を把握し、利用後のサービスに結びつけている。本人の不安に耳を傾けることにより、信頼関係の構築に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の実情を把握し問題解決へ結びつけると共に、家族を取り巻く環境も把握し、出来る限りの支援を行えることを目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の取り巻く環境の中で、他のサービスの可能性も考慮しつつ、聞き取りを行っている。柔軟な対応が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用後には、利用者毎の担当職員を置き、生活の中での支援や相談等を行える体制を取っている。本人には生活の中で役割を持ってもらい、共生を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を常に報告し、支援の方向性については意見をもらい、サービスに結びつけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人との関係の継続に配慮し、面会・外出等の支援を行っている。 希望があれば家族の宿泊についても受入を行い、支援している。	外出等を利用したり、家族や知人の協力も得たりしながら利用者の情報を収集し、利用者が大切にしてきた関係が途切れないよう支援に努めている。また、施設1階の喫茶コーナーを利用して、顔なじみの利用者同士が出会えるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の趣味や興味のある事項を見だし、職員は利用者と共に楽しみながら参加している。利用者が孤立しないよう時には職員が仲介しながら、関係性の構築を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、今後利用の必要性について疑問や不安があれば連絡いただける旨を説明行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者ひとりひとりに担当職員がおり、思いを少しでも引き出せるよう、日頃から関わりの機会を多く設けている。また、新たな希望や意向がないか常に留意している。	毎日の関わりの中で、表情や言葉等からその人の気持ちを汲取り、それとなく確認等もしながら思いや意志の把握に努めている。利用者の意向についてミーティングや連絡ノートを活用して職員間で共有し、本人の生活を支えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族にも協力を得て本人の生活歴や家族関係、就いていた職業などをシートに記入している。それを加味して関わりを行い、少しでも本人の目線に即したサービスに繋がるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所直後から一定期間にわたり24時間の過ごし方や利用者の身体状況を把握している。生活面で、本人が出来そうな役割を試しながら、2度目の更新時のサービス計画書を立案する際には、残存機能に着目した計画書になるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と担当職員が連携して、月に1回プラン実施状況と近況を家族に報告し、サービス計画を振り返る機会を設けている。また、新たな課題や入所者や家族の希望するケアを日頃から配慮している。	利用者や家族から日頃の関わりの中で、得た思いや意見等の情報を基に、担当職員等で意見交換、モニタリング、カンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成し、適切な支援が提供できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の課題毎の記録を行い、1回/月は現行プランを途中評価し、あらたなサービス追加の必要性がないか定期的な振り返りを行っている。状態変化著明等サービスの追加・変更があればミニカンファレンスの開催を検討する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関との連携により、本人の状態に応じて往診依頼等柔軟な支援に取り組んでいる。また、家族の希望による宿泊についても受入を行い、家族と共に時間を過ごしていただける支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のボランティアの方々をお願いして、ハンドマッサージの機会を設ける等地域との関わりの機会を設けている。今後も更なる関係の構築に努めたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医については、本人・家族の希望があれば受診の継続が可能であり、基本的に家族が受診に同行している。協力病院への通院の際は症区員が同行しており、ホームでの状況を医師に報告する等連携を図り、家族へ受診結果を報告し、入所後も安心できる医療の提供を受けられる環境作りを行っている。	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診が可能で、基本的に家族が受診に同行している。定期的に協力病院の訪問診療があり、家族に報告、相談し安心して医療の提供を受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入所者の心身状況に充分配慮しながら接し、細かいことでも変化があれば併設事業所の看護師に適宜報告・相談を行い、適切な対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、事業所より本人の情報提供を書面にて行っている。入院後も定期的に医療機関への本人の状態の確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、協力病院と連携を密にし、医療の提供を要する際には迅速な対応を図っていく事や重度化や終末期になった際、協力病院や法人の特養と連携し、入居者の意向に配慮しながら対応する旨も家族に説明している。	重度化や終末に向けた対応については、入所時に家族に説明している。協力病院や系列法人の特別養護老人ホーム等と連携し、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内研修において、緊急時の対応について全職員に対し周知を図っている。また、AEDを設置し、使用方法についても職員全員が使用できるよう研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に基づき、管轄消防署の立ち会いにて年2回の避難訓練(夜間想定含む)を行っている。また、地域の防災訓練にも参加している。災害に対応できるように併設施設と共同で米や水等の備蓄等も行っている。	消防署の指導のもと、年2回の避難訓練(夜間想定含む)を実施している。併設施設と共同で連携をとりながら、災害対策に取り組んでいる。スプリンクラー、避難場所等定期的に点検を行い全利用者と職員が安全に避難できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の研修や職員会議で一人一人の対応を話し合い、言葉づかいも人生の先輩として尊重できるよう心がけている。	プライバシーや尊厳に関する研修会に参加し、利用者に対し、丁寧にやさしく接するように心がけている。利用者主体に努め、情報収集の個別性や守秘義務について、責任ある取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者ひとりひとりに担当職員がおり、思いを少しでも引き出せるよう、日頃から関わりの機会を多く設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日に関しては各々の希望日に基づいて促しているが、気がのらない日には適宜変更し対応している。また、大人数で行うレクでも本人の意向を尊重し、拒否があれば他の職員が個別の関わりの機会を設ける等している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所時に本人若しくは家族に寝具(パジャマ)を持参してもらい、毎日寝具(パジャマ)交換をおこなっている。本人と相談しながら、衣類を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回程度のバイキングや選択食の機会を設け、好きな物を好きなだけ食べて頂いたり、週一回行われる喫茶には併設事業所の利用者と共に談話する機会となっている。また、入居者と食材の準備や配膳、おしぼりの準備や茶碗洗い等、出来る事を職員と共にやっている。職員が同じテーブルに座り会話を楽しむ事にも配慮している。	事業所の畑で取れた野菜を使い調理している。また配膳、おしぼり配りなど利用者の出来る事を、職員と一緒にやっている。食事の時、職員は同席し、話をしたり介助をしたりするなど楽しく食事が出来るよう心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事・水分摂取量の把握に努めている。また、1回/月は体重測定を実施し、一人一人の健康状態に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回協力歯科医院の口腔ケア指導により、入所者全員に対して食後の口腔保清促し、義歯洗浄やリンス促している。できることは必ず行ってもらい自立支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	前回の排尿から概ね3時間経過したらトイレ誘導したり、落ち着きなく徘徊する等の排泄のサインあれば都度誘導している。排泄まで時間がかかる入所者については決して急かさず、落ち着いて集中できるよう羞恥心に充分配慮した声かけを行っている。	個人の水分摂取や排泄状況を確認し、尿意を示さない利用者にも時間を見計らって、自尊心に配慮しながら、トイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を飲んでもらったり腹部マッサージや緩下剤投与するが、日頃から十分な水分量確保の促しながら、日中の活動量を増やし、自然排便に繋がるよう努めている。特に水分摂取強化を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に週2回としているが、入所者の希望曜日を確保している。気がのらない日には、午後入浴や曜日変更等で適宜対応している。	施設では入浴回数は決められているが、利用者の希望を確認したり、状態に応じて適宜対応している。希望に応じて、仲の良い利用者と入浴が出来るなど楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後はのんびりお茶を飲んでもらう時間を設けながら、自室に戻る方、テレビ鑑賞される方等お好きなように過ごしてもらいながら適宜入眠促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに個人個人の処方箋を綴じ込んでおり、必要時には全職員が閲覧できるようにしている。また、定期処方の変更や臨薬処方時等は確実に申し送る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な調理や掃除の他、また、農村地域に立地しており農業に従事していた入所者も多く、職員と一緒に畑作業を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望で近所への散歩や季節に応じた外出の機会(花見や地域の行事)を柔軟に提供している。本人の意向を尊重し無理強いにならないよう配慮しながら、家族に同伴を依頼したり地域のボランティアの協力も得ている。	季節に応じた年間行事を作成し、外出の機会を積極的にもうけている。外出の際、家族に同伴を依頼したり、地域のボランティアの協力も得ている。本人の意向を尊重し、買い物、近くの神社への散歩等戸外に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことによる社会性の維持を理解し、外出時や買い物等にて使用してもらっている。金銭のやり取りの難しい人に関しては、行わないが買い物を行う行為の機会は提供している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	便箋や筆ペン等の希望の声には家族に依頼したり、外出時に文房具店で購入している。隣接する系列事業所前にある郵便ポストまで職員が付き添い手紙が投函できる。電話を希望される方には快くかけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーの保護がなされやすい、各個室にトイレ設備がある。居間や廊下には入所者に同意を得て目線に近い高さに季節の飾り付けや、外出時の写真を掲示したり、職員の顔写真を掲示している。自然と会話できるよう長椅子や畳コーナーを設置している。	廊下、居間、食堂、浴室など広く開放感がある。室内は、家庭的な雰囲気、利用者の居室からの動線は分かりやすく、安全に移動できる。居室ドアに表札や写真を貼り、個室が分かりやすく工夫されて安心して過ごせるよう心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間においても椅子、長椅子を設置し、そのときの気分に合わせて自由に過ごしてもらえるような空間や雰囲気作りを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前や、入所してからも、本人及び家族に依頼し、自宅で使用していたソファやタンス等お持ち頂くよう声をかけている。お孫さんの写真や家族写真を持ってきて頂く等している。また、家族がいつでも宿泊できるよう配慮している。	利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具、思い出の品等、利用者の好みのものが持ち込まれ、居心地良く生活できるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のできることを活かしながら居住空間を本人家族とともに構築している。備え付けのベッド等についても介助バーの設置等個々に合わせた環境作りを行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891700153		
法人名	社会福祉法人 坂井福祉会		
事業所名	認知症共同生活介護 湯池野(兵庫ユニット)		
所在地	福井県坂井市坂井町下関42-4-2		
自己評価作成日	平成29年 8 月 10 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	平成 29年 8 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

坂井平野の田園風景の広がる風景の中の複合施設の4階部分に事業所は立地しています。居室の窓からは、西側には広く田園風景を眺められ、東側には山並みを望み季節感を味わえる環境にあります。地域密着型特養・ショートステイ・認知症型デイサービスを併設した複合施設の中で当該事業所にとられず広く交流出来る環境作り心掛けています。また、家族の面会や地域のボランティアの受け入れを行い、開かれた環境を作っている。医療面については、利用者の状態を常に把握し、必要時には併設事業所の看護師に相談しながら協力病院への受診を行い、安心して生活出来る環境作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東十郷ユニットと同じ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念である「愛情と対話」を元に事業所の理念を管理者・職員と共に作り、基本理念に基づいたケアを意識できるよう毎朝の申し送り時に唱和している。	東十郷ユニットと同じ。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れ(紙芝居、ピアノ弾き語り)や併設の特別養護老人ホームと合同で納涼祭を開催し、地域の掲示板でお知らせする事で多数の参加を得ている。	東十郷ユニットと同じ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事への参加を行い、地域の団体等のボランティアを招き交流を図っている。また、併設事業のデイサービスの利用者の方がしばしばグループホームに來訪している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民・行政職員・利用者家族の参加にて2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、事業所の現状・行事の報告を行っている。会議での意見を運営に反映を行っている。	東十郷ユニットと同じ。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に運営推進会議への参加を依頼し、常に事業所の運営について意見を頂いている。運営上の疑問点があれば、常に意見を求められる関係の構築を行っている。	東十郷ユニットと同じ。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用開始時、事業所は身体拘束を行わない旨を本人・家族に説明している。 職員へ身体拘束の是非についても話し合い、身体拘束は行っていない。	東十郷ユニットと同じ。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、職員に高齢者虐待の防止について徹底し、利用者に対して尊厳を保った対応を行うよう周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用契約時、身元引受人を選定して頂き、サービス内容等について説明を行っている。現在、成年後見制度等の活用事例はないが、必要に応じて案内を行える体制は取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時には、契約書・重要事項説明書を説明し、署名捺印を頂いている。質問・要望についても確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム便りを作成し、担当職員が近況を書いて家族に毎月送付している。また、運営推進会議への利用者家族の参加を依頼すると共に、面会時等利用者の現状を家族に報告を行い、要望等を確認している。	東十郷ユニットと同じ。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、週1回ミーティングを行っている。また、月に1回の全職員参加の事業所会議を行い、意見交換・提案の機会を設けている。	東十郷ユニットと同じ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員個々との面談を行い、勤務状況ややりがい等の意見交換を行っている。また、研修等においても本人の希望や経験年数に合わせ受けられるような体制を取っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の勉強会や経験年数に合わせた内部研修を計画的に開催している。また、外部研修についても、経験年数・習熟度に応じて積極的な参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での会議を設け、事業所の方向性や現状について意見交換を行い、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前には、必ず自宅等を訪問し本人・家族の抱えている問題等を把握し、利用後のサービスに結びつけている。本人の不安に耳を傾けることにより、信頼関係の構築に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の実情を把握し問題解決へ結びつけると共に、家族を取り巻く環境も把握し、出来る限りの支援を行えることを目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の取り巻く環境の中で、他のサービスの可能性も考慮しつつ、聞き取りを行っている。柔軟な対応が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用後には、利用者毎の担当職員を置き、生活の中での支援や相談等を行える体制を取っている。本人には生活の中で役割を持ってもらい、共生を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を常に報告し、支援の方向性については意見をもらい、サービスに結びつけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人との関係の継続に配慮し、面会・外出等の支援を行っている。 希望があれば家族の宿泊についても受入を行い、支援している。	東十郷ユニットと同じ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の趣味や興味のある事項を見いだし、職員は利用者と共に楽しみながら参加している。利用者が孤立しないよう時には職員が仲介しながら、関係性の構築を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、今後利用の必要性について疑問や不安があれば連絡いただける旨を説明行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者ひとりひとりに担当職員がおり、思いを少しでも引き出せるよう、日頃から関わりの機会を多く設けている。また、新たな希望や意向がないか常に留意している。	東十郷ユニットと同じ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族にも協力を得て本人の生活歴や家族関係、就いていた職業などをシートに記入している。それを加味して関わりを行い、少しでも本人の目線に即したサービスに繋がるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所直後から一定期間にわたり24時間の過ごし方や利用者の身体状況を把握している。生活面で、本人が出来そうな役割を試しながら、2度目の更新時のサービス計画書を立案する際には、残存機能に着目した計画書になるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と担当職員が連携して、月に1回プラン実施状況と近況を家族に報告し、サービス計画を振り返る機会を設けている。また、新たな課題や入所者や家族の希望するケアを日頃から配慮している。	東十郷ユニットと同じ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の課題毎の記録を行い、1回/月は現行プランを途中評価し、あらたなサービス追加の必要性がないか定期的な振り返りを行っている。状態変化著明等サービスの追加・変更があればミニカンファレンスの開催を検討する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関との連携により、本人の状態に応じて往診依頼等柔軟な支援に取り組んでいる。また、家族の希望による宿泊についても受入を行い、家族と共に時間を過ごしていただける支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のボランティアの方々をお願いして、ハンドマッサージの機会を設ける等地域との関わりの機会を設けている。今後も更なる関係の構築に努めたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医については、本人・家族の希望があれば受診の継続が可能であり、基本的に家族が受診に同行している。協力病院への通院の際は症区員が同行しており、ホームでの状況を医師に報告する等連携を図り、家族へ受診結果を報告し、入所後も安心できる医療の提供を受けられる環境作りを行っている。	東十郷ユニットと同じ。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入所者の心身状況に充分配慮しながら接し、細かいことでも変化があれば併設事業所の看護師に適宜報告・相談を行い、適切な対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、事業所より本人の情報提供を書面にて行っている。入院後も定期的に医療機関への本人の状態の確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、協力病院と連携を密にし、医療の提供を要する際には迅速な対応を図っていく事や重度化や終末期になった際、協力病院や法人の特養と連携し、入居者の意向に配慮しながら対応する旨も家族に説明している。	東十郷ユニットと同じ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内研修において、緊急時の対応について全職員に対し周知を図っている。また、AEDを設置し、使用方法についても職員全員が使用できるよう研修行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に基づき、管轄消防署の立ち会いにて年2回の避難訓練(夜間想定含む)を行っている。また、地域の防災訓練にも参加している。災害に対応できるように併設施設と共同で米や水等の備蓄等も行っている。	東十郷ユニットと同じ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の研修や職員会議で一人一人の対応を話し合い、言葉づかいも人生の先輩として尊重できるよう心がけている。	東十郷ユニットと同じ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者ひとりひとりに担当職員がおり、思いを少しでも引き出せるよう、日頃から関わりの機会を多く設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日に関しては各々の希望日に基づいて促しているが、気がのらない日には適宜変更し対応している。また、大人数で行うレクでも本人の意向を尊重し、拒否があれば他の職員が個別の関わりの機会を設ける等している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所時に本人若しくは家族に寝具(パジャマ)を持参してもらい、毎日寝具(パジャマ)交換をおこなっている。本人と相談しながら、衣類を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回程度のバイキングや選択食の機会を設け、好きな物を好きなだけ食べて頂いたり、週一回行われる喫茶には併設事業所の利用者と共に談話する機会となっている。また、入居者と食材の準備や配膳、おしぼりの準備や茶碗洗い等、出来る事を職員と共に行っている。職員が同じテーブルに座り会話を楽しむ事にも配慮している。	東十郷ユニットと同じ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事・水分摂取量の把握に努めている。また、1回/月は体重測定を実施し、一人一人の健康状態に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回協力歯科医院の口腔ケア指導により、入所者全員に対して食後の口腔保清促し、義歯洗浄やリンス促している。できることは必ず行ってもらい自立支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	前回の排尿から概ね3時間経過したらトイレ誘導したり、落ち着きなく徘徊する等の排泄のサインあれば都度誘導している。排泄まで時間がかかる入所者については決して急かさず、落ち着いて集中できるよう羞恥心に充分配慮した声かけを行っている。	東十郷ユニットと同じ。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を飲んでもらったり腹部マッサージや緩下剤投与するが、日頃から十分な水分量確保の促しながら、日中の活動量を増やし、自然排便に繋がるよう努めている。特に水分摂取強化を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に週2回としているが、入所者の希望曜日を確認している。気がのらない日には、午後の入浴や曜日変更等で適宜対応している。	東十郷ユニットと同じ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後はのんびりお茶を飲んでもらう時間を設けながら、自室に戻る方、テレビ鑑賞される方等お好きなように過ごしてもらいながら適宜入眠促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに個人々の処方箋を綴じ込んでおり、必要時には全職員が閲覧できるようにしている。また、定期処方の変更や臨薬処方時等は確実に申し送る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な調理や掃除の他、また、農村地域に立地しており農業に従事していた入所者も多く、職員と一緒に畑作業を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望で近所への散歩や季節に応じた外出の機会(花見や地域の行事)を柔軟に提供している。本人の意向を尊重し無理強いにならぬよう配慮しながら、家族に同伴を依頼したり地域のボランティアの協力も得ている。	東十郷ユニットと同じ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことによる社会性の維持を理解し、外出時や買い物等にて使用してもらっている。金銭のやり取りの難しい人に関しては、行わないが買い物を行う行為の機会は提供している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	便箋や筆ペン等の希望の声には家族に依頼したり、外出時に文房具店で購入している。隣接する系列事業所前にある郵便ポストまで職員が付き添い手紙が投函できる。電話を希望される方には快くかけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーの保護がなされやすい、各個室にトイレ設備がある。居間や廊下には入所者に同意を得て目線に近い高さに季節の飾り付けや、外出時の写真を掲示したり、職員の顔写真を掲示している。自然と会話できるよう長椅子や畳コーナーを設置している。	東十郷ユニットと同じ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間においても椅子、長椅子を設置し、そのときの気分に合わせて自由に過ごしてもらえるような空間や雰囲気作りを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前や、入所してからも、本人及び家族に依頼し、自宅で使用していたソファやタンス等お持ち頂くよう声かけている。お孫さんの写真や家族写真を持ってきて頂く等している。また、家族がいつでも宿泊できるよう配慮している。	東十郷ユニットと同じ。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のできることを活かしながら居住空間を本人家族とともに構築している。備え付けのベッド等についても介助バーの設置等個々に合わせた環境作りを行っている。		